

VI 学校と地域

「学校と地域」の関係について、教員、保護者、学校評議員に聞くことで、学校活動に地域と家庭がどのように関わると考えているのか把握することにした。

調査の結果、教員は、地域と学校の関わり方について「情報交換と活動支援など」と回答した割合が高く、地域が学校運営に直接関わることを望む回答は低い割合となっている。

それに対して、学校評議員は、「保護者の学校教育活動や地域の行事への積極的な参加」や「家庭や地域の人による授業への協力」など、地域や保護者が学校の取組みに参画する必要があると回答する割合が高くなっている。

また、保護者ができる地域活動として、「あいさつなどの声かけ」、「子どもへの注意」、「登下校時などの安全確保への協力」などの割合が高く、学習支援など学校運営に直接関わる回答は低くとどまっている。

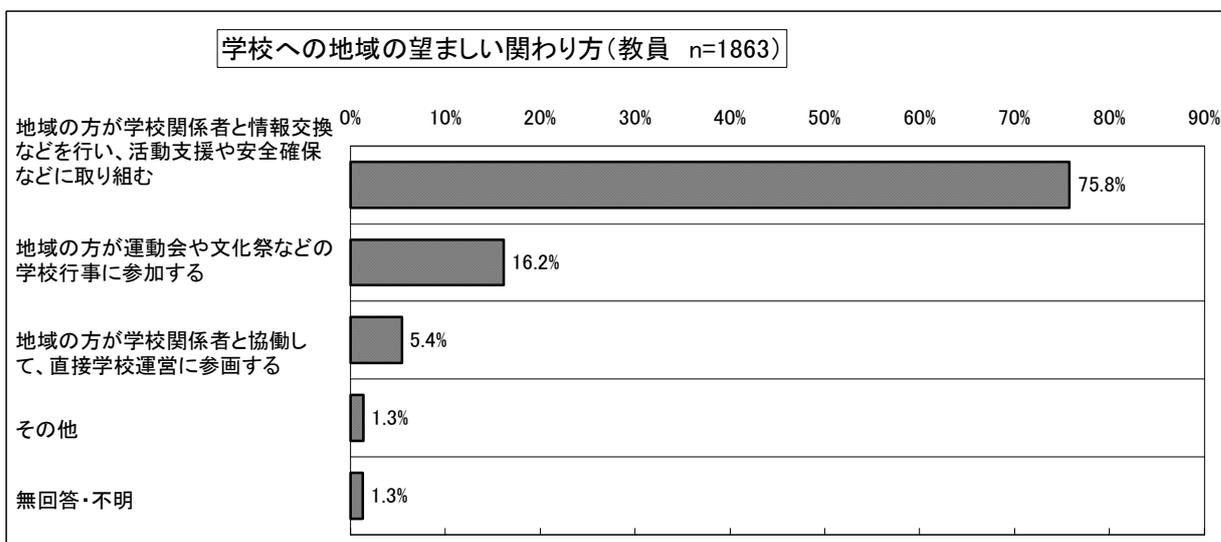
VI-1 学校への地域の望ましい関わり方

「学校への地域の望ましい関わり方」を教員に聞いたところ、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」との回答が7割以上と高い一方、「地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する」との回答は1割に達しない結果となっている。

「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」に75.8%が回答している。

一方、地域が学校行事などに直接参加する「地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する」は16.2%、「地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する」は5.4%と低い割合になっている。(図VI-1参照)

図VI-1



VI-2 学校、家庭、地域との連携

「子どもの教育のために、学校、家庭、地域の連携協力で必要なこと」について学校評議員に聞いたところ、「学校の様子や地域の取組みがお互いにかかるようにする」や「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」など三者の関わり合いを必要とする回答の割合が高くなっている。

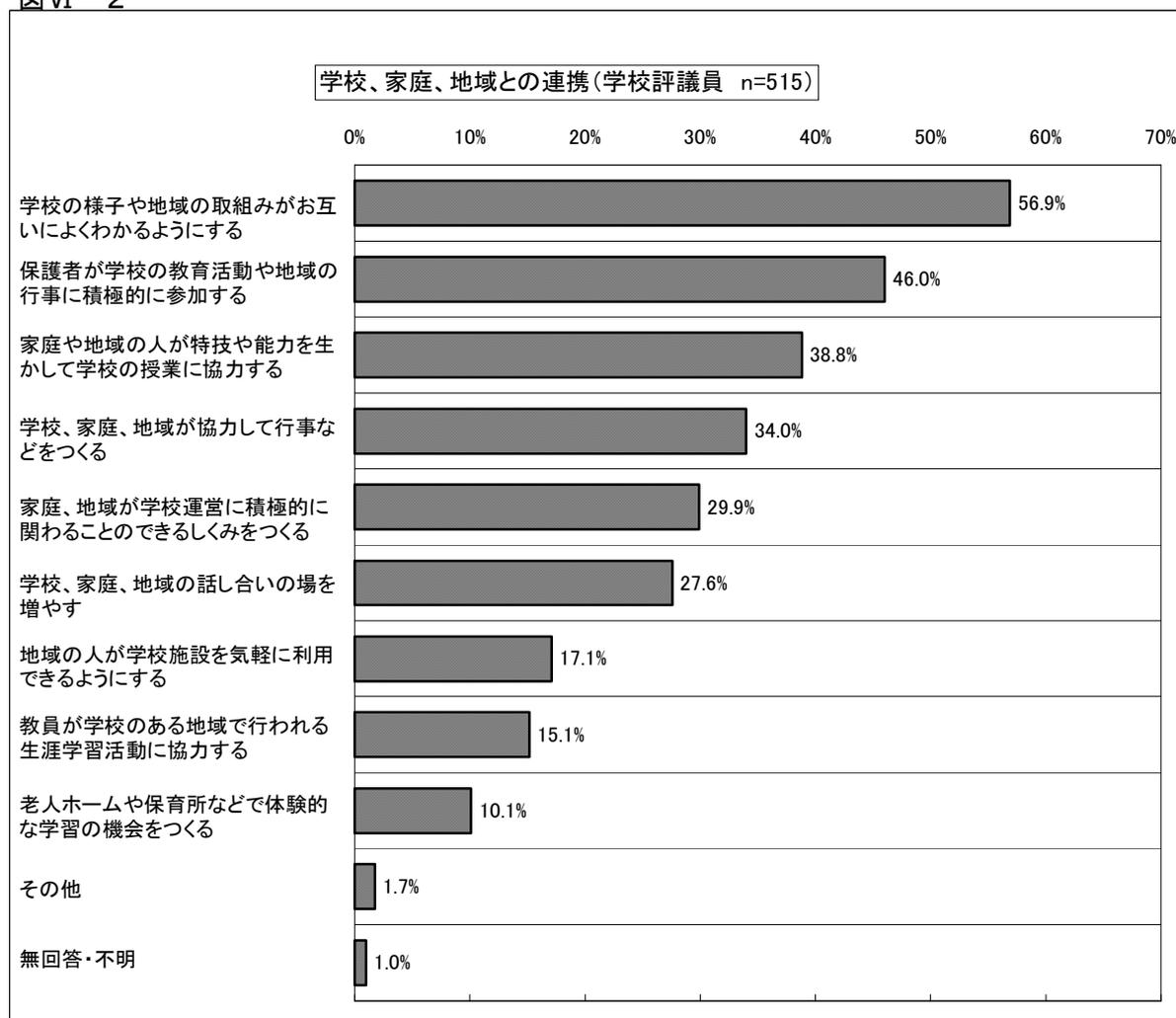
一方で、「教員が学校のある地域で行われる生涯学習活動に協力する」など、教員に地域の学習活動に取り組んでもらうことを望む回答の割合は低くなっている。

「学校の様子や地域の取組みがお互いにかかるようにする」が 56.9%と最も高い割合であった。

そのほか、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(46.0%)、「家庭や地域の人々が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(38.8%)、「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」(34.0%)についても高い割合となっている。

一方、地域活動に教員が取り組む「教員が学校のある地域で行われる生涯学習活動に協力する」は 15.1%と低い割合となっている。(図VI-2 参照)

図VI-2



VI-3 地域で活動できること

「地域で活動できること」について保護者に聞いたところ、「あいさつなどの声かけ」、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」などを回答する割合が高く、「授業や講演・講座への協力」、「学習支援」など学校運営に関わる回答の割合は低いものになっている。

子育てやしつけに関わる「子どもへのあいさつなどの声かけ」(71.3%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(56.7%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(52.6%)が上位を占めている。

次いで「運動会や文化祭などの学校行事への参加・協力」(42.7%)、「体験活動やボランティア活動への協力」(33.0%)といった学校行事への協力が続いている。

一方、「特技や能力を生かした学校の授業や講演・講座の講師」(21.5%)、「授業がわからない子どもなどへの学習支援」(13.9%)のように、授業への支援を回答した割合はこれらに比べ低い割合となっている。(図VI-3参照)

図VI-3

